

公共文化施設の役割

田村 孝子

たむら たかこ／東京都出身。1965年慶應義塾大学文学部卒業。同年NHK入局。副会長秘書を経て、1968年から音楽番組ディレクターとして「あなたのメロディー」「N響アワー」「ときめき夢サウンド」「ジュリー・アンドリュース&アンドレ・プレヴィン指揮NHK交響楽団コンサート」などの人気音楽番組を手掛ける。1997年から芸術・文化担当の解説委員として文化行政への提言や情報発信に努める。2007年より静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ館長。

静岡県は県立劇場に専属の劇団《SPAC》をもつという、日本では先進的な文化政策をとっている県です。ですから演劇については東京でも経験できないような世界の最先端の作品に触れられるばかりでなく、静岡の舞台作品は世界で上演されています。でも、その意義・価値を理解している方は残念ながらほんの一部なのです。そのうえ、美術館はありますが、博物館はなく、音楽・ダンスなど他の上質な芸術に触れるチャンスがほとんどないのも現実です。簡単に東京や名古屋にアクセスできる静岡では、その必要性を感じていない方が多いのかもしれない。子どもたちや年配層、障がい者は何の経験もできない事に気づいてほしい！地域で豊かに暮らすためには、さまざまな上質な文化が身近に存在する事が大切ではないでしょうか。

二〇〇八年七月、オランダのロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団のブラスクインテットを招聘したおりに、市内の視覚特別支援学校での出前コンサートをお願いしました。セミの声が聞こえ、開けた窓から風が……。でも体育館は飛びきりのコンサートホールでした。赤いバラ一輪ずつを手渡し、オランダ語、日本語、英語で「ありがとう」とうれしそうにお礼を言う子どもたち、それに答える演奏家たちのやさしい眼差し……。これが本当の音楽だと思った。「一生に一度の経験だと思う」。子どもたちの感想に、大人の責任を痛感しました。

二〇〇八年秋、東京と新潟の小学校で二ユーヨーク・フィルのティーチング・アーティストによる出前コンサートがありました。先ず音楽で子どもたちを引きつけ、六人全員が語りかけながらすめられました。さまざまな国の音楽を取り上げることにより、多様な文化に自然に触れさせるものでしたが、アーティストたちの変わらぬ笑顔が何よりのメッセージ、まさに音楽を通じての心の交流と実感しました。NYで公教育から芸術がなくなった一九七五年から、危機感をもって始められたこの様な取り組みは、今欧州でも盛んに実践されています。さまざまな分野の芸術団体に限らず、劇場や美術館、図書館などに専門家がいます。《芸術文化が社会に果たす役割》。その力を信じて弛まぬ努力が続けられています。

日本でも、行政、地域住民、芸術家等関係者それぞれが連携を図り公共文化施設が地域の豊かさを育む人びとの集う場になればと心から願っております。



目次

JANUARY 2009
月刊みんばく

1

01 エッセイ 世界へ世界から
公共文化施設の役割
田村 孝子

02 特集 ウシ

古代インドのウシの儀礼
永ノ尾 信悟
ウシと乳がもたらす富
平田 鷹弘
水牛を観る目
高井 康弘

ウシの目覚ましはツツツツツツ

- 03 編田 浩志
横綱牛は一族のほまれ
野村 雅一
- 08 モノ・グラフ
博物館のモノを透かして見ると
坂本 勇
- 10 地球ミュージアム紀行
曲面が描く、居心地のよい博物館
小林 繁樹
- 11 表紙モノ語り
牛鬼
笹原 亮二
- 12 みんなくインフォメーション
- 14 万国津々浦々
子連れフィールド・ワーカー奮闘記 アメリカ篇
すべての子どもたちの健康を祈って
玉山 ともよ

- 15 人生は決まり文句で
的に命中！ポーク！
小野田 俊蔵
- 16 外国人として生きる
在日南米人のドラマを載せて
古屋 哲
- 18 歳時世相篇
⑩阪神淡路大震災
冬の灯り、震災の記憶
林 勲男
- 20 生きもの博物誌
「水ゴキブリ」を食べてみるかい？
川口 幸大
- 22 フィールドで考える
3つの時代の学校経験
金子 正徳
- 24 みんなく ウィークエンド・サロン
研究者と話そう
次号予告・編集後記